

令和5年度
事業報告書



社会福祉法人 ゆたか会

目 次

1. はじめに	・・・	1
2. 法人本部	・・・	2
3. 障害者施設支援部	・・・	8
4. 相談支援部	・・・	12
5. 介護保険部	・・・	17
6. 児童支援部	・・・	23
7. 通所系支援部	・・・	26
8. 共同生活援助部	・・・	31

1. はじめに

令和5年度は、事業運営に関して、法人全体として当初の計画通りに進まない状況のまま1年が過ぎてしまうという形になってしまった。事業活動収入の面において、当初予算を達成できなかったことがその要因であると考えられる。

特に“障害者支援施設 希望の郷”と“多機能型事業所 THREE-P”において、収入が前年度比を下回ってしまったことが、大きな影響を及ぼしている。

“希望の郷”においては、年間を通して長期入院の利用者が複数人出てしまったことから、事業運営が当初の予定通り進まなかった面があり、この課題については早急に取り組んでいく必要がある。ただ、このような状況の中ではあるが、今後について施設の建て替えも含め事業所全体の将来像を考えていく必要もある。この件については、単年で検討することは難しい問題であることから、時間をかけて計画的に事業運営のあり方そのものについて方向性を見出していくことが大きな課題になってくると考えている。

また、“多機能型事業所 THREE-P”については自立訓練事業が事業開始当初の目標を達成できず事業の継続が困難な状況になってしまったことにより、令和5年度いっばいで事業を廃止することになり、令和6年度からは就労継続支援B型事業所として事業運営していくこととなった。他事業所との差別化を図るためには他の就労継続支援B型事業所にはない、特色のある事業運営のあり方について検討していかなければならない。

さらに、この二事業所以外においても、年間を通して安定した事業運営ができていない事業所もあることから、次年度以降の課題として、それぞれの事業所において運営のあり方について検討していくことは必要である。

事業所運営以外では、法人全体で考えていくことが必要なことについて、事業所を横断する形でいくつかの委員会を設置しているが、それぞれの委員会については各メンバーが前向きな形で議論を進めており、与えられた役割を十分果たしてきているのではないかと感じている。このことにより、各委員会に所属している職員だけでなく、他の職員にも法人に対する帰属意識を高める作用を引き出していると評価している。

最後に、令和6年度は報酬改定も行われることから、その分析も十分行っていくことにより、より効率的で安定的な事業運営ができるように取り組んでいくことが求められる。

部署名：法人本部

①地域貢献の視点			
重点課題	地元・地域との交流事業の推進	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふれあい祭り」を3年ぶりに開催したが、地域との交流事業ではなく施設内行事として実施した。 ・地元企業とのコラボレーションとして、「駅舎工房」をリニューアルした。その際に牛ミノを使用したから揚げ「みのから」をイベントで3回販売し、好評を得た。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業とのコラボレーションを推進し、生活介護での作業の受注及び自社製品を開発する。 ・「みのから」の販売をイベントで実施し、自社製品として開発を進める。 		

②財務の視点			
重点課題	資金収支計画の策定	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・資金収支について理事運営会議や管理者会議にて説明を実施した。 ・理事会および評議員会では経営指標を活用し、わかりやすい説明を心がけた。 ・資金収支計画については、報酬の大幅な改定があったことから、令和5年度中の策定は行わなかった。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所の収支状況は訪問時に説明し、予算達成状況やその要因を分析し、予算達成を確実なものとし、各事業所での単独黒字化を実現する。 ・令和6年度中に3ヶ年収支計画を策定する。 		
重点課題	広報活動の実施	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの変更などは変更の際にその都度実施した。 ・動画配信などの手法については検討するに至らなかった。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動の実施は、各事業所及び広報委員会が主体となって行い、法人本部は、広報活動の進捗状況や内容の監査を行う事務局的機能に重点を置く。 ・法人パンフレットを完成させる。 		
重点課題	法人の事業計画（BCP）の策定	事業判定	終了
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全6回の事業計画策定委員会を実施し、令和5年10月にBCPが完成した。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・BCPを使用した、法人全体での訓練を実施する。 ・令和6年度は通報訓練を実施し、BCPを全職員に周知する。 		

③顧客の視点			
重点課題	法人内事業所の事業連携によるサービスの向上	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者会議を毎月実施した。 ・各委員会が定期的に開催された。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者会議の開催を3ヶ月に一度とし、各事業所に毎月訪問する。 ・毎月の訪問で、各事業所の状況をより密接に把握し、課題の即応性を高める。 		

重点課題	権利擁護意識の向上	事業判定	終了
実施状況	・法人本部で主だった事業の実施は行わなかった。		
次年度に向けて	・権利擁護意識の向上は、各事業所において研修を実施しており、法人本部が主体となって研修等を行うことは終了する。		
重点課題	SDGs を取り入れた経営の実践に向けた研究	事業判定	見直し
実施状況	・SDGs の情報収集を行ってきたが、具体的に実施していない。		
次年度に向けて	・SDGs の研究は続けていき、法人として実施出来ることの整理を行っていく。		

④業務プロセスの視点			
重点課題	組織内交流事業の実施	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・人材確保委員会が企画した、職員交流会（食事会）を2月に実施し、職員間の交流を深めた。 ・参加者は約50名であり、4割弱の出席率であった。 		
次年度に向けて	・食事会だけではなく、勉強会や共同事業の企画など、あらゆる方向で職員間交流が出来るよう企画を促す。		
重点課題	施設整備計画の実施	事業判定	終了
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・長期経営計画の策定をする中で、希望の郷の建て替えを検討するに至った。 ・収支が芳しくない状況なので、すべての事業所の整備を行うことができなかった。 		
次年度に向けて	・長期経営計画に基づき「希望の郷新事業計画策定委員会」を組織し、希望の郷の建て替えに向けて、事業内容、施設整備の規模について検討を開始する。		
重点課題	長期経営戦略の策定	事業判定	終了
実施状況	・長期経営計画策定委員会を組織し、9月に10カ年計画である長期経営戦略を策定した。		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・長期経営計画を実現するため、毎月、各事業所を訪問し、課題の早期解決を実施する。 ・「ゆたか会事業検討委員会」を組織し、法人全体の事業を再検討する。 ・「希望の郷新事業計画策定委員会」を組織し、希望の郷の建て替えに向けて、事業内容、施設整備の規模について検討を開始する。 		
重点課題	第3次中期経営計画の策定	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所とのヒヤリングを実施し、第3次中期経営戦略が3月に完成した。 ・第1次～第2次の事業を引き続き実施するとともに、長期経営計画の実現に向けた内容を補完する形で策定した。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所の訪問時に中期経営戦略の進捗状況を確認し、課題があれば一緒に解決する。 ・年度末に進捗状況のヒヤリングを実施する。 		

重点課題	人事・採用計画の策定	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・人材を確保することはできたが、計画的には行えなかった。 ・各事業所の適正な人員配置を確認することができなかつたので、採用計画の策定にはいたらなかった。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の職員配置状況や人件費率、加算取得状況を確認し、黒字化に向けた人員配置を行う。 ・令和8年に採用計画を策定するために情報の収集を行う。 		
重点課題	職員への事業計画及び報告の説明会の実施	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・4月に事業計画の説明会を実施した。 ・事業報告については実施できなかった。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年4月に長期経営計画、中期経営戦略（第三次）及び令和6年度事業計画の説明会を実施する。 ・予算や決算についても説明する方法を考える。 		
重点課題	外国人労働者（技能実習生）の受入れ	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にミャンマー人技能実習生を2名受け入れた。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・技能実習生について、仕事だけでなく生活面でのサポートも実施し、異国で就労する不安を軽減する。 ・技能実習制度が変わり、技能実習生にメリットが少なくなっていることから特定技能労働者の採用に切り替える。 ・ミャンマー人の採用を続けているが、国の情勢が良くないので他国の労働者の受入れが可能か検討する。 		
重点課題	理事運営会議の強化	事業判定	終了
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月定期に開催した。 ・議題も多岐に渡り、会議の活性化が進んだ。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の醸成が進んでおり、改めて強化する必要が無いことから、事業計画としては終了する。 		
重点課題	計画的な障害者雇用の実施	事業判定	終了
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな障害者の雇用は行っていないが、在職職員を継続して雇用している。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に採用しているわけではなく、障害者雇用率の達成を目標においている。 ・障害者雇用を計画的に実施することについても採用計画に含まれることから、重点課題としては終了する。 		
重点課題	理事会等の定期開催	事業判定	終了
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会を3ヶ月に一度定期的に開催した。 ・定時評議員会を実施した。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法の改正からガバナンス強化を実施し、理事会等の定期開催を実施している。 ・法人運営として、理事会等の定期開催は必然であることから、重点課題としては終了する。 		

重点課題	法人記章の商標登録	事業判定	未実施
実施状況	・法人記章の商標登録は実施していない。		
次年度に向けて	・法人記章の商標登録について調査し、費用対効果が見込めるのであれば、商標登録し、記章の作成を行う。		

⑤学習と成長の視点			
重点課題	職員教育制度の確立	事業判定	継続
実施状況	・法人主幹研修（外部研修）の受講を行ったが、計画的に実施することができなかった。		
次年度に向けて	・法人主幹研修について、受講内容及び対象者のリスト化を行い、必要な人材に必要な研修が出来るようにする。		
重点課題	法人の運営を担う職員の育成	事業判定	未実施
実施状況	・特に実施することはなかった。		
次年度に向けて	・法人主幹研修の整理を行い、法人運営を担う人材への研修受講を促す。 ・人事考課の見直しを実施し、法人運営を担う人材の育成を進める。		

令和5年度 会議開催実績

監事監査

回数	日時	議題	備考
	令和5年5月23日 13:30～15:30	令和4年度事業監査	
	令和6年5月25日 10:00～12:00	令和4年度会計監査	

理事会

回数	日時	議題	備考
第115回	令和5年6月6日 18:30～20:00	【議決事項】 第1号議案 令和4年度事業報告について 第2号議案 設備等整備積立金の積み立てについて 第3号議案 工賃変動積立金の積み立てについて 第4号議案 令和4年度決算報告(案)について 第5号議案 理事選任(案)について 第6号議案 監事選任(案)について 第7号議案 第35回評議員会の開催について 【報告事項】 第1号報告 令和4年度監事監査報告について 第2号報告 財務会計に関する事務処理支援体制の向上に対する支援業務に関する報告について 第3号報告 理事長業務執行事項について 第4号報告 業務執行理事業務執行事項について 第5号報告 理事運営会議の実施状況について	評議員会にて報告 評議員会へ議題提出 評議員会へ議題提出 評議員会へ議題提出
第116回	令和5年6月22日 16:00～16:15	【議決事項】 第1号議案 理事長選任について 第2号議案 業務執行理事選任について	
第117回	令和5年10月12日 18:40～19:40	【議決事項】 第1号議案 令和5年度資金収支補正予算(第一次)について 【報告事項】 第1号報告 駅舎工房モンファボリについて 第2号報告 長期経営計画について 第3号報告 理事長業務執行事項について 第4号報告 業務執行理事業務執行事項について 第5号報告 理事運営会議の実施状況について	
第118回	令和6年2月1日 18:30～19:55	【議決事項】 第1号議案 自立訓練(生活訓練)事業THREE-Pの終了について 第2号議案 多機能型事業所THREE-P運営規程の改正について 第3号議案 給与規程の改正について 第4号議案 車両管理規程の制定について 第5号議案 自家用車通勤規程の制定について 【報告事項】 第1号報告 相談支援事業の消費税課税について 第2号報告 法人指導監査について 第3号報告 理事長業務執行事項について 第4号報告 業務執行理事業務執行事項について 第5号報告 理事運営会議の実施状況について	

第119回	令和6年3月25日 18:25～20:05	【議決事項】 第1号議案 障害児等療育支援事業の終了について 第2号議案 時間単位の年次有給休暇の付与に伴う就業規程の改正について 第3号議案 令和5年度資金収支補正予算(第二次)について 第4号議案 修繕積立資産の取崩しについて 第5号議案 令和6年度資金収支予算について 第6号議案 中期経営戦略(第三次)について 第7号議案 令和6年度事業計画について 【報告事項】 第1号報告 理事長業務執行事項について 第2号報告 業務執行理事業務執行事項について 第3号報告 理事運営会議の実施状況について	
-------	--------------------------	--	--

評議員会

回数	日程	予定議題	備考
第35回	令和5年6月22日 14:00～15:40	【議決事項】 第1号議案 令和4年度決算報告について 第2号議案 理事選任について 第3号議案 監事選任について 【報告事項】 第1号報告 令和4年度事業報告について 第2号報告 令和4年度監事監査報告について 第3号報告 財務会計に関する事務処理支援体制の向上に対する支援業務に関する報告について 第4号報告 理事長業務執行事項について 第5号報告 業務執行理事業務執行事項について 第6号報告 理事運営会議の実施状況について	定時評議員会

部署名：障害者施設支援部

①地域貢献の視点			
重点課題	事業の推進 (祭りの開催や、モンファボリの運営による地域との交流、活性化)	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい祭は希望の郷の利用者対象に相談支援部、児童支援部、介護保険部の協力のもと11月に開催した。 ・モンファボリは8月末で米粉パンの販売を終了し、10月から道の駅ならぬ「駅の駅」としてリニューアルオープンした。今屋のハンバーガー兵庫の出店、大浦ミートの自動販売機の導入、自主生産品「牛ミノ唐揚げ」等、地域の企業等と協働して事業展開することができた。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい祭は終了。希望の郷としては利用者の旅行実施を企画実施する時期とする。ゆたか会としてふれあい祭を継続する場合は協力する。 ・モンファボリで定期的なイベント企画をする。共に法華口駅の活性化に向けて取り組む出店者を募る。「牛ミノ唐揚げ」の商品化に向けて取り組む。 		
重点課題	利用者(当事者)の社会活動へ参加推進	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉会館の清掃は未実施。法華口駅の清掃は月1回程度実施。 ・パン販売は8月で終了。農作物は大根やネギ、椎茸等、給食業者に納品できるほどの量を出荷できた。リンドウは定植・育成の段階。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉会館及び法華口駅の清掃を月1～2回実施する。 ・農作物の生産は継続する。野菜だけでなく、リンドウの出荷にもチャレンジする。 		
重点課題	地域への協力	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・糺摺り実施。職員体制に課題があり、現場が手薄になる状況や特定の職員に負担がかかる状況があった。 ・野条町祭りや善防公民館祭り等に参加。焼きそばを提供し好評であった。地域住民と共に溝普請に参加した。 ・加西市障害者自立支援協議会のあんしん暮らし支援連絡会に参加。加西市における地域生活支援拠点等事業の検討、緊急時短期入所空床確保事業への協力に取り組む。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・糺摺り作業については職員体制の課題について検討し、適切な職員配置をする必要がある。 ・地域行事については継続して参加する。自主生産品(牛ミノ唐揚げ)の販売も検討する。 ・加西市障害者自立支援協議会の取り組みには協力し、地域を支える基盤づくりの一翼を担えるよう努める。 		

②財務の視点			
重点課題	収入の安定 ・施設入所支援事業(定員50名)	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・入院者が月2～3名いる状況で大きく減収し予算未達成。利用率98.5%以上を目標にしていたが、95.2%に留まった。 ・重度支援加算Ⅱの取得は安定しており、職員の経験値に応じて研修受講できている。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・入院者が出た場合の収入補填を検討していく。 ・施設入所希望者の相談はあったが、最重度の方に偏っており、現状での受け入れは困難。施設入所に関しては、短期入所を経た上で状況に応じて調整していく。 		
重点課題	収入の安定 ・生活介護事業(定員60名)	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・活動棟をリニューアルし、活動内容や職員体制を見直した。療育の家はくつろげるスペースをつくり、過ごしやすい環境を整備した。 ・利用率92.5%以上を目標にしていたが、91.7%と伸び悩んだ。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・建て替えを考慮すると、大きな環境整備は難しい。現在の利用者には、本館では午後からの活動内容の検討、療育の家、虹の家と連携した支援の検討を進め、より良い環境づくりに向けて取り組む。将来を見据えた通所事業や高齢重度化への対応等検討していく。 		
重点課題	収入の安定 ・短期入所事業(定員8名)	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時短期入所空床確保事業の対応として、土休日等に1床空きをつくり、緊急利用の体制整備を行った。相談支援事業所からの依頼はあったが、受け入れ実績はない。 ・利用率52.5%以上を目標にし、58.9%を達成した。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時短期入所空床確保事業に協力し、地域生活支援拠点等事業の一翼を担う。 ・事業の登録利用者のスムーズな受入に向けた面談や通常時の短期入所利用調整を行う。 		
重点課題	収入の安定 ・日中一時支援事業(定員4名)	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時短期入所空床確保事業の登録利用者のスムーズ受入体制整備として、本事業の活用を提案し、無理なく利用してもらえよう調整した。 ・利用率33.1%以上を目標にし、33.1%を達成した。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズに対して柔軟な対応をし、生活介護事業や短期入所事業の利用に繋げていく。 		
重点課題	コストの削減	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務が増加傾向にあり、年間の一人当たりの時間外勤務時間が40時間を超えている。業務等の役割分担が特定の職員に集中している状況がある。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・業務等の役割分担の見直しや業務の効率化を図ると共に、適正な職員配置についても検討する。 		

③顧客の視点			
重点課題	支援体制の強化 (質の高いサービスの提供)	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援に力を入れ、支援票に基づく統一した支援や要望や意向にそった支援ができるよう注力した。慌てず、焦らず、穏やかに利用者に関わることをモットーに利用者が安心して過ごせるよう努めた。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・新任職員等の育成に力を入れ、職員配置を見直すと共に、支援体制の強化を図る。 		
重点課題	日中活動の充実、見直し	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・活動棟をリニューアルし、日中活動の充実に努めた。ダンスや体操など、利用者にあった運動を取り入れた。創作活動では行事等の飾付をつくり、行事を準備段階から楽しめるようにした。季節行事を見直し、利用者それぞれに楽しめるよう工夫をした。10月から余暇活動を再開し、毎週水曜日に実施した。農耕作業では大根やネギなどが豊作で内部販売の機会が増えた。給食で提供する機会もあり、利用者からの喜びの声を聞くことができた。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・活動支援委員会が中心となり、施設内の課題抽出と改善に向けて取り組んでいく。福祉会館や駅舎の清掃の機会が減っているが、次年度は職員体制等を立て直し、定期的な活動を進めていく。 		
重点課題	生活支援の充実	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・整容や季節に合った服装を職員が意識し、朝や外出前等に確認することを徹底した。食事面での満足度を上げるために、できる範囲で利用者希望のメニューを取り入れた。物価高騰のため、朝食に提供していた菓子パンを変更した。12月予定していた大掃除は1月に実施した。施設の老朽化に対応すべく、全体の環境整備だけでなく、居室の整備にも力を入れた。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援委員会、環境整備担当者が連携して、施設内の課題抽出と改善に向けて取り組んでいく。 		
重点課題	関係機関、学校等への広報活動の強化	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校の生徒の実習は申し込みがなく未実施。相談支援事業所とはモニタリング時等で情報交換し、連携した支援が進められるよう努めた。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・午後は入浴、おやつ、生活支援が中心で、活動的なプログラムを提供できていない。受け入れのための広報活動よりも体制整備が必要。新規利用者受け入れを進めていくためにも、午後の活動プログラムと職員配置の検討を行う。 		
重点課題	SNS等を活用した広報の充実	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・インスタグラムは月数回更新し、日々の活動や行事等を発信した。利用者家族対象に広報誌を毎月発行した。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者家族対象のアンケート調査を実施する。 		

④業務プロセスの視点			
重点課題	業務の見直し、効率化	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議及び職員会議を見直し、できる限り職員からの意見集約がしやすい職場環境の整備に努めた。運営会議で定めた方向性に基づき、職員が協力して委員会活動や担当業務を進めていくことができるよう調整した。また、次年度に向けて、委員会活動を見直し、事務分掌との整理を行った。書類作成や事務の効率化が図れるような改善案の提案や職員が主体的に動く意識づけを行い、働きやすい職場環境づくりに努めた。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に委員会活動の再編を行い、次年度が新たな希望の郷づくりの1年目としての意識づけを図る。 		
重点課題	リスクマネジメントの強化	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止委員会での検証は、十分な時間とメンバー集約ができず、不十分な状況。虐待防止委員会ではチェックリストの検証を行い、職員の孤立化や抱え込みを防ぐために、委員会メンバーと共にケース検討する取り組みを始めた。BCPの作成は完了したが、防災防火委員会等で周知の機会をつくることはできなかった。感染症対策委員会では職員及び利用者への研修を実施し、手洗いの重要性等について考える機会をつくった。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動を中心に取り組みを継続する。運営会議で進捗状況等の管理を行う。 		

⑤学習と成長の視点			
重点課題	職員内部研修の実施	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月内部研修を実施する予定であったが、年3回（感染症、虐待防止、事故防止）の実施に留まった。年度途中から職員体制に余裕がなくなり、会議や研修をする機会の調整が難しくなったことが原因。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会で余裕をもって研修実施できるよう、年間スケジュールを調整し、計画的に取り組んでいく。 		
重点課題	教育計画の実施と見直し	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・職員教育、育成計画について見直しを進め、マニュアルのブラッシュアップを概ね終えることができた。 ・OJTに関しては、主任が中心となって新任職員の育成を進めた。職員の理解や習熟度に合わせて、無理なく業務を身につけられるよう、取り組みを進めている。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・育成計画のマニュアルを完成させ、職員周知を図る。 ・計画的なOJTを進めていけるよう、指導する職員のレベルアップを図る。 		

部署名：相談支援部

①地域貢献の視点			
重点課題	地域に必要な支援体制の構築	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・加西市障害者自立支援協議会や北播磨圏域の会議等へ積極的に参入し、地域に必要な仕組みづくり等の発信や研修を行った。 ・自立支援協議会では、地域生活支援拠点等の整備を進めており、単独型短期入所施設を設置（令和6年夏頃）されることで体制整備が完了する見込み。また保育所訪問等事業の利用についての仕組みづくりなどを行った。 ・北播磨障がい福祉ネットワーク会議 発達障害支援部会では、「青年期年代（18歳）を見据えた支援」をテーマとして、研修会の開催を行った。 ・CRAFT 推進員として、クローバーCRAFT プログラム研修会を開催。 ・北播磨県民局と圏域コーディネーターが中心となり、北播磨圏域相談支援研修会を開催した。他、BCP 作成、虐待防止研修など多くの研修に企画、講師として参加した。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度、医療的ケア児等支援連絡会を立ち上げ、医療的ケア児等支援連絡会に対しての支援体制整備行なっていく。継続するが重点課題を「医療的ケア児等に対する支援体制の整備」とする。 		
重点課題	年齢や障害を問わない総合的な相談体制の構築	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・断ることなく相談を受け付け、内容によっては、代表者会議での検討や各部署間で連携するなど、各部署の機能を活用できる体制ができた。 ・複合的な課題のあるケースについては、相談支援部内でケース検討をおこない、各部署の強みをいかした支援、多職種連携による支援を行った。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、相談支援部各部署の機能を活用し、総合的な相談支援が提供できるよう体制を強化し対応していくとともに、関係機関との協力体制を強化していく。 ・地域貢献の視点としては終了するが、顧客の視点として引き続き重点課題は継続し、地域貢献の視点としては「複合課題を抱えたケースへの対応」とする。 		
重点課題	加西市及び圏域の自立支援協議会の活発な活動	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会では各連絡会の事務局として積極的に参加した。各連絡会で研修を行うなど活動は活発になっている。 ・地域生活支援拠点等の整備が進められ、緊急時短期入所受入れの仕組み作りができ、「8050問題」について対応できる体制ができたが、ライフステージに合わせた準備が不足しており理解促進が必要である。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・各連絡会とも活発に活動できている。横断的に活動することを今後強化して、さらに活発化を図る。 ・令和6年度中に地域生活支援拠点等の整備が完了見込みである。8050問題について、家族に理解促進を促していく必要があることから、重点課題をより具体的に「8050問題の理解促進」に変更する。 		

②財務の視点							
重点課題	事業所経営の黒字化			事業判定	見直し		
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・委託費収入は、加西市委託相談支援事業において、27,300,000円。加西市生活困窮者就労準備支援等事業及び生活保護適正化等事業において、5,978,000円。障害者等相談支援コーディネート事業において、5,015,000円。ひょうご発達障害者支援センター加西ランチ事業において、13,680,000円となっている。 ・計画相談支援（障害児相談支援）において、当初目標160万円/月に対し、約185万円/月となった。計画件数（モニタリング、児童）の増加が要因と思われる。 ・自立生活援助は、支援開始2年を経過し、減算対象となった上に施設入所等により利用終了となったことから減収となった。 						
	【計画相談支援（障害児相談支援）】						
		令和4年度		令和5年度		差	
		件数	給付費	件数	給付費	件数	給付費
	成人	921	17,831,505	1,020	19,091,977	99	1,260,472
児童	122	2,479,980	159	3,098,000	37	618,020	
合計	1,043	20,311,485	1,179	22,189,977	136	1,878,492	
実施状況	【自立生活援助事業】						
	令和4年度		令和5年度		差		
	件数	給付費	件数	給付費	件数	給付費	
	58	1,283,735	41	810,595	▲17	▲473,140	
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度、委託費の増額、報酬改定による増収により、運営状況は改善される見込みである。しかし令和6年3月で自立生活援助事業の利用者が0人となり、対象者の選定方法など検討し、利用者確保が急務であることから、重点課題は「自立生活援助事業の利用者確保」と見直すこととする。 						
重点課題	計画相談での加算獲得徹底			事業判定	継続		
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・成人において、サービス提供時モニタリング加算が100件程度減少したことが要因である。集中的にモニタリングや支援が必要な方の増加や、来所でのモニタリングなどが減少理由として考えられる。 						
			令和4年度	令和5年度	差		
	成人	年間	434	329	▲105		
		月平均	36.2	27.4	▲8.8		
	児童	年間	22	38	16		
月平均		1.8	3.2	1.4			
<ul style="list-style-type: none"> ・加算取得への認識は高まり、加算対象になる支援を実施した場合には、記録等の事務処理も適切にできている。 ・ケアカルテの導入により、請求業務の効率化、記録等の事務処理を確実に行うことが定着してきた。 							
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング時に事業所訪問を可能な限り行う。 ・加算獲得や計画相談作成など収入に対する意識は持つことができている。引き続き、加算獲得の徹底を行っていく。 						

重点課題	無理、無駄を省いた業務遂行	事業判定	見直し	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 勤務時間内で業務遂行することを心がけ、出勤時間の変更、業務内容の精査、計画的・効率的に行うようにしているが、時間外勤務が微増した。一部の職員に業務が偏っている、研修準備など個人、特定部署に負担が偏っている。 			
	1人当たりの時間外勤務（1ヵ月あたりの時間）			
		令和4年度	令和5年度	差
	やすらぎ	4.2	4.9	0.7
	はんど	6.9	8.4	1.5
	ブランチ	12.7	10.7	▲ 2.0
	部内平均	6.7	7.1	0.4
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 業務分担の見直し、業務の整理（スリム化）を行う。 時間外勤務の抑制（人件費削減）、光熱水費、物品費用の節約を心掛け、コスト意識を醸成する。 重点課題を「計画相談の維持・増加」とし、引き続き無理、無駄を省いた業務を遂行しセルフプランの数を減らしていく。 			

③顧客の視点			
重点課題	自立生活援助事業の活用	事業判定	終了
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 計画相談担当者と連携を図り、利用者の望む暮らしに必要な支援（一人暮らしの継続を目指した支援）を提供した。 昨年度利用延長した4名について、家庭状況の変化により入所、在宅支援サービス等による支援体制が確立された結果、全員が令和5年度末をもって利用終了となった。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 早急に利用者の確保をおこなう。 利用対象者をはんど・やすらぎの利用者だけでなく、他の相談支援事業所にも対象者を拡げ、利用者を確保できるよう働きかける。 令和6年度、「自立生活援助事業の利用者確保」として財務の視点の重点課題とし、顧客の視点としては終了する。 		
重点課題	地域ニーズの把握	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 積極的にケース会議に出席した。内容を所内で共有し、代表者会議で報告、共有を図っている。 課題を整理し、必要に応じて自立支援協議会に報告、提案した。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き積極的にケース会議を開催・出席し、地域ニーズの把握を行い整理し自立支援協議会等に報告、提案を行っていく。 重点課題を「年齢や障害を問わない総合的な相談の実施」とし、幅広くニーズを把握する。 		

重点課題	相談窓口の明確化	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> パンフレットの見直しを行い素案作成まで行ったが、更新までには至らず各相談の役割化を伝えられていない。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 9月ごろを目途にパンフレットの作成を進め、行政をはじめ各関係機関に配布・周知を図る。 相談対応や業務の整理を行いながら、引き続き相談窓口の明確化を進める。 		

④業務プロセスの視点			
重点課題	効率的な業務遂行	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ケアカルテ導入により、個々の計画書やモニタリング、記録などが一元化され、請求業務の効率化が図れている。また、はんどやすらぎ間で情報が共有することができた。 必要に応じてカスタマイズを依頼し、集計や書類作成などを行いやすいようにした。 記録に関して屋外での記録入力が可能となったが、操作しづらい部分（利用者検索）があり、十分に活用ができていない。 他の業務について、スリム化は図れていない。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ケアカルテの機能を活用できるよう引き続き検討を行い、必要であればカスタマイズを依頼していく。 モバイル機能を活かし、記録入力の効率化を検討し早急を実施する。 常に改善を意識し、会議等で提案できるように意識し取り組む。 		
重点課題	職員配置の検討	事業判定	未実施
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援専門員1名増員について検討したが、配置には至らなかった。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 現状、計画相談支援（障害児相談支援）を新規で受けることが困難である。セルフプランを減らすため、又サービス向上のためにも増員が望ましい。計画作成による収入増、適正な委託費収入の獲得など経営改善に向けて取り組み、職員増員できるよう努める。 セルフプランを減らすため、市内相談支援事業所と連携強化を図るための提案を行い、市内の相談支援体制の構築に向けた取り組みを行う。 		
重点課題	業務の見直し	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 担当利用者の見直しについて、はんど内、はんどとやすらぎ間での担当者の見直し、引継ぎを行っている。 担当引継ぎについては、計画的に進めており令和6年度中に完了する予定である。 ランチにおいては、令和5年度でCRAFT研修終了、同じくTHREE-Pの自立訓練事業終了に伴い業務の負担軽減が見込まれる。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き計画的に担当者変更を進めていく。また、複合的課題を抱えたケースについても随時見直していく。 		

⑤学習と成長の視点			
重点課題	新たな視点での提言ができる職員の育成	事業判定	終了
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 各部署の会議及び代表者会議で課題や新たな企画等の内容について検討を行い、加西市障害者自立支援協議会や北播磨圏域の会議等で提言した。地域課題の解決に向けた取り組みが進められるよう検討の場で提言することができた。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、令和6年度も北播磨障がい福祉ネットワーク会議の当番市となる。日々の実践を通して地域課題の掌握と、その解決のための具体的な方策を提言していく。 加西市障害者自立支援協議会や北播磨圏域等の会議で提言していることから、重点課題としては終了するが、引き続き幅広い視点を持ち各会議等での提言を行っていく。 		
重点課題	積極的な外部研修への参加	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限り外部研修に参加できるよう調整を行っているが、職員間に参加回数の差が出ている。業務に追われ、主体的に研修参加しにくい状況がみられた。 研修後には復命の場として報告会を実施し、テーマに沿った意見交換をする機会を確保した。 学びの共有と意見交換により、研修受講者だけでなく、職員個々に新たな気づきがあり、スキルアップやチーム作りに繋げることができた。 ピアサポート、強度行動障害など加算取得に関する研修受講をした。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 計画を立て、積極的に研修に参加する機会を設ける。 加算取得に要する資格等に関する研修について、計画的に参加する。 		
重点課題	事業所内研修の実施	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 代表者会議で年3回の研修会実施を検討した。北播磨圏域の委託相談支援事業所にも参加してもらい、共に学ぶ機会を設けることができた。知識や技術の獲得だけでなく、相談支援業務に必要な発言力が身につけられるよう、グループワークでは意図的な質問、根拠を示した発表を意識して意見交換する機会を設けた。 参加者からは好評で、委託相談支援事業所以外の事業所も参加できるようにしてほしいとの声もある。 精神科医を招き、医療と福祉の連携や個別ケースなどについてスーパーヴァイズを行った。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き現在の取り組みを継続し、アセスメント力（情報収集、分析）、課題解決に向けた思考力や行動力を身につけ、多職種連携、社会資源の活用し課題解決に向けて実践できるよう企画立案して実施する。 次年度は各会議等で伝える能力を高めるため、プレゼンテーションの機会を設ける。 医療機関と連携するケースも多く、次年度も医療関係者によるスーパーヴァイズを受け、医療との連携を強化し支援を行っていく。 		

部署名：介護保険部

①地域貢献の視点			
重点課題	地域との協働事業の推進	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・第2層生活支援コーディネーター サロンやマルシェの運営に協力しながら地域課題の整理を行った。 定期的に各地区のサロンやカフェ、地域行事等に参加することができた。 カフェや体操グループの立ち上げ、継続支援を行った。 昨年度に続き、既存のカフェや体操グループへの参加はできた。新グループの活動では中心的な立ち位置ではないものの、活動の継続のための意見交換等には参加し、効果的な発言を行うことが出来た。 ・ふるさと創造会議の常任理事を継続し、基本計画の内容に従い事業実施を行った。 引き続きハーブ園の運営や行事等の企画を行った。地域の行事に、どっこいしょの利用者の参加の機会を設けることで、後期高齢者の活動の場を創出し、高齢化の課題を地域住民と共に考える機会とすることを目的としていたが、身体的に重度化がすすむどっこいしょ利用者において、どっこいしょとして共同事業に取り組むことが難しい状況であった。 ・どっこいしょと、下若井町で協働設置している絆カフェは月1回の実施ができた。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと創造会議の常任理事を継続し、地域づくり計画に基づいた、ハーブ園の運営をひき続き行う。地域で後期高齢者が暮らし続けるための基盤づくりを行い、利用者には選ばれる事業所を目指した事業を実施する。また、地域密着型事業所との連携や、あったか介護相談員等の受け入れを行う。 		
重点課題	認知症カフェ実施	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・下若井町の絆カフェはどっこいしょの協働事業として企画運営を行った。 下若井町とどっこいしょの協働運営の絆カフェは、毎月第4週の水曜日に実施した。 町の参加者は元気な女性が多く、絆カフェのターゲットになる人の利用は、ほぼなかった。どっこいしょの利用者の参加もあるが、利用者の偏りが見られた。 ・中富町にて、令和5年度カフェを立ち上げ、運営を協力。 ・北条で立ち上げたカフェは、生活支援コーディネーターの事業として運営を協力。 北条地区の絆カフェは、認知症や高齢者の利用は少なく、障害のある方の利用が多かった。色々な人が交流する場として機能していた。 ・地域住民との交流や、関係機関への協力を活動の中心において、アウトリーチを基本に活動した。北条地区では、後期高齢者の独居も多く、つながりはあり、孤立はしていないが、生きづらさがあるという人が増えている状態であった。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、認知症カフェの企画・運営を行い、地域で後期高齢者や認知機能に障害のある人等の参加の場を設け、地域住民との交流の場や地域の中で生きづらさのある方の参加の場として機能するように継続実施する。 		

重点課題	地域密着型サービス事業所連携	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・加西市内の小規模多機能型居宅介護・地域密着型事業所と協働し、介護職の確保や、事業所職員の質の担保に取り組んだ。 研修を企画したが、実施予定の月に、各事業所でコロナ感染者の発生や、濃厚接触者が大量に発生し、研修を実施しても参加できる事業所がなく、中止となった。 実地指導、運営指導で受けた指摘事項の共有、対策を話し合った。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所合同の研修会の開催や人材確保のための活動、加算の算定に必要な研修会や意見交換など事業所間の交流の場を設ける。 		
重点課題	認知症等啓発活動	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会・行政と協力し認知症講座を実施した。 『あったか声かけ作戦』や『認知症サポーター養成講座』など地域住民向けの認知症理解のための講座の開催を社会福祉協議会、行政に協力して実施した。 限られた時間の中での講座は、認知症の状態を引き起こす病気の理解は、講座だけでは難しく、地域住民にとって、一部認知症への誤解や偏見にもつながることが懸念される。 ・第2層生活支援コーディネーター 初期集中支援と協力し担当地区の認知症の人の支援を行った。 認知症初期状態で地域生活に困難を感じている人の見守りや、現状把握を行い、必要であればサービス利用につなぐ。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き地域の現状を鑑みて、認知症の理解に関して必要な活動を、社会福祉協議会や行政と話し合っていく。また、認知症に特化することで逆に偏った理解を生むことが、介護の社会化や後期高齢者の地域生活継続を可能にするために必要な啓発活動を行っていく。 		

②財務の視点			
重点課題	予防から看取りまで利用	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・看取り契約を実施。看取り期の連泊体制を整備し、本人が苦痛なく旅立てるよう支援した。人生の最終段階になる前から、本人・家族と、どこで、どのような最期を迎えたいかを希望するか話をし、ライフサポートプランに明記した。 ・元気に生きて、老衰や加齢に伴う持病の悪化により人生の最終段階を迎える人の安らかな死を支えることを目標に、令和5年度も、職員に研修を実施するなど、連泊の体制を整えた。令和5年度、看取りとして事業所で最期の時間を過ごす利用者が1名あった。予防から長期利用され、本人や家族の希望に沿った支援であった。 ・また、令和5年度は新規で予防の利用の方が数名あり、事業所内に身体機能・認知機能の低下した状態の利用者や療養している利用者もおり、活発な日中活動を提供することが課題となった。 ・元気な後期高齢者が利用しない傾向にあるが、地域生活の継続にはサービス利用も必要であることをアウトリーチした。(第2層生活支援コーディネーター) 		

次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・看取り体制の充実とともに、予防の人が機能維持や回復で充実した日中の過ごし方ができるよう、日中活動の充実に取り組む。また、人生の最終段階の意思決定支援、医療介護の連携体制の整備を行う。 																																																		
重点課題	退院後の利用促進						事業判定		継続																																										
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・病院のソーシャルワーカーと連携し、どっこいしょの生活リハビリで回復が見込めること等を本人や家族に伝えた。 ・退院時の、連泊の受け入れ体制の整備を行った。 ・退院後の、かかりつけ医との合意形成を行った。 ・退院後の、施設入所0を目指した。 ・令和5年度、退院後に入所施設等への住み替えはなかった。 																																																		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・持病の悪化や骨折等での入院後、特別養護老人ホーム等への住み替えではなく、どっこいしょを利用できるよう、利用者・家族との関係づくり、事業所の体制整備を継続して実施する。 																																																		
重点課題	新規利用者確保						事業判定		継続																																										
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチを行い、支援の必要な高齢者にサービスの説明等を行った。 ・地域包括支援センター病院のソーシャルワーカーとの連携を促進した。 <p>令和5年度新規利用者実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規利用者数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>93.1</td> <td>89.7</td> <td>89.7</td> <td>89.7</td> <td>86.2</td> <td>86.2</td> <td>82.8</td> <td>89.7</td> <td>93.1</td> <td>89.7</td> <td>89.7</td> <td>93.1</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・亡くなった方、サービス変更による利用解除等あったが、稼働率は維持できた。 													4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	新規利用者数								2	1		2	1	稼働率(%)	93.1	89.7	89.7	89.7	86.2	86.2	82.8	89.7	93.1	89.7	89.7	93.1
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																							
新規利用者数								2	1		2	1																																							
稼働率(%)	93.1	89.7	89.7	89.7	86.2	86.2	82.8	89.7	93.1	89.7	89.7	93.1																																							
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の地域密着型介護保険の事業所では、稼働率70%を下回っているところがあり、利用者確保が難しくなっている。関係機関との調整、在宅介護の推進、介護職によるサービスの充実を行い利用者には選ばれる事業所となる。 																																																		
重点課題	科学的介護推進体制加算の算定						事業判定		継続																																										
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・日中活動におけるリハビリ、フレイル予防、口腔ケアの充実を実施し、加算の算定を目指した。しかし、利用者情報の入力などを行ったが、算定までには至らなかった。 ・介護ソフトの入れ替え時に、算定時に必要書類作成の効率化が図れるように整備した。 																																																		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・介護報酬の改定に伴い、他の加算の算定と併せて、4月に算定の申請を行う。 																																																		

③顧客の視点			
重点課題	人生の最終段階の受け入れ	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・本人・家族と十分に話し合いながら、宿泊の調整を行った。 ・在宅医療と連携し、看取りの体制を整えた。 ・本人の意向については、プランに明記し、家族にも説明。人生の最終段階をどっこいしょに連泊し、必要な医療が受けられる体制を整備。 ・令和5年度、看取りとして事業所で最期の時間を過ごす方が1名あった。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して関わっている利用者の状態変化等を見ながら、人生の最終段階を本人の意向にそえるよう体制及び環境を常に整えておく。 		
重点課題	独居高齢者への夜間訪問	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・独居で疾患のある高齢者の就寝準備や不定愁訴への対応ができるよう、遅出者を調整するなど、宿直者で対応できるように業務体制を整備した。 ・急激な身体機能の低下や病変、認知機能の低下等で、自宅でこれまでできていたことができなくなることが多い。本人も家族も急な変化を受け入れることができず、生活が困難になるのだが、就寝迄の訪問やどっこいしょで食事等を済まして自宅に戻ることによって混乱を最小限にし、在宅生活の継続が可能になるケースが多かった。職員の勤務帯の調整や、宿直等を組み合わせながら夜間、早朝の訪問に対応した。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間で夜間訪問等ができるよう柔軟な人員配置と利用者支援のあり方を検討し、必要時の訪問ができる体制を整える。 		
重点課題	在宅医との連携強化	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・通院が難しい状態の後期高齢者に対して自宅・事業所で訪問診療が受けられるよう体制整備を行った。 ・訪問診療、訪問看護が必要な利用者に対して訪問診療を実施している。また、歯科医の訪問診療も利用できる人が増えた。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問診療が必要な人が在宅診療を受診できるように、体制整備を継続して実施していく。 		
重点課題	日中活動の充実	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の意見を聞き、通いでのリクリエーションの導入やそれにかかる日中活動の見直しを実施した。 ・利用者の後期高齢化に伴い、日中充実した活動ができていなかった。利用者の希望に沿い、毎日の日中活動をカレンダーで利用者にも職員にも可視化し、配置された職員がサービス提供をできるようにした。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・通いで日中活動を提供することで、利用者にとって参加や楽しみづくりの機会を設けていく。 		

重点課題	フレイル予防	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍以降も外出の機会が極端に減り、足腰が弱まった利用者も多かった。外に出たり、部屋でできる体操を取り入れるようにし、フレイル予防に努めた。 ・足腰が弱まった利用者が多く、日中活動で体操等を導入しても、外出して歩行する運動量には満たなかった。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のしたい活動を実施し、日中活動の充実などを図っていく。 		

④業務プロセスの視点			
重点課題	個別ニーズに対応したサービス提供	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサポートプランの見直し等を個別支援会議で行い、アセスメントとモニタリングを定期的に行った。 ・急に心身の状況が変化した場合、臨機応変に個別の状況に対応した。 ・個別に必要なサービス提供をおこなっていた。毎月の伝達会議や毎朝の朝礼時のカンファレンスにおいて、日々変化する状況に対応できるよう努めた。ただ、個別の状況がまだまだ後追いする形になってしまうことが少なからずあることから、職員間で提供するサービスの共有が求められた。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・免許返納等で買い物や通院に困っている地域の高齢者の利用促進など、新しいニーズへの対応を行っていく。また、利用者に関する情報もしくはサービス提供にあたっての留意事項の伝達を目的とした会議を引き続き月一回実施し、職員全員が個別ニーズの確認をする。 		
重点課題	人生の最終段階における意思決定支援	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・人生の最終段階で、意思表示ができなくなる前に本人の意思を確認し、ライフサポートプランに明記した。家族の想いと、本人の意思が違う場合が多いので、元気なうちから最期どうするかを話し合っておくなど、その時に、本人の想いをきちんと代弁していくようにした。 ・令和5年度、利用者1名がどっこいしょで看取りを行なった。予防から長期利用され、本人や家族の希望に沿った支援であった。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・人生の最終段階をどこで迎えたいかの意思形成を行うために、本人を交えてのアドバンスケアプランニングを実施していく。 		
重点課題	退院後の受け入れ体制整備	事業判定	終了
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊人数の調整、退院後のリハビリ体制整備、在宅医との調整等必要な体制整備を行い、退院時に連泊できる体制ができたため、スムーズな在宅復帰ができた。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・退院時の受け入れ態勢が整っていないと、病院から入所になるケースが多いので、日常的に宿泊機能の整備は行き、宿泊人数を柔軟に対応できるようにしておく。また、引き続きリハビリや在宅医療をスムーズに使えるよう連絡調整を行う。 		

⑤学習と成長の視点			
重点課題	デスカンファレンスの実施	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・看取り後は必ず振り返りを行った。ACP の研修等に参加し、人生の最終段階に向き合うために必要な知識や姿勢を職員全員が身に着けるよう努めた。 ・振り返りについては、職員が一度に集まる機会を作るのが困難であったため、数回に分けて実施した。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・正規職員などは、積極的に ACP の研修に参加し、今後もデスカンファレンスを実施するための知識や技術を身に着ける。 		
重点課題	OJT の実施	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、OJT テーマを設定し実施した。 ・残務で 17 時 30 分以降に実施すると、参加できる職員が少数であり、中止したこともあったため、日中に複数回実施すると参加職員は増えたが、十分な時間が取れず短い時間でしか実施できなかった。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・職員一人ひとりの専門性を高めるため、OJT の実施と OFFJT への参加の機会を作る。 ・職員の学ぶ意欲を引き出せるようなテーマ設定を行う。実施については、月 2 回、同じテーマで日中に実施し、引き続き公休や夜勤の職員も参加できるように調整する。 		
重点課題	実習生の受け入れ	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 5 年度は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための社会福祉援助技術現場実習の学生の受け入れはなかった。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学習環境を整え、受講者が学びたいことが学べるように環境整備を行う。 		
重点課題	事業所評価の実施	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者、利用者家族、職員にアンケートを取り検証を行った。運営推進会議のメンバーから助言をもらい、改善点を整理しホームページに公開する予定であった。結果を踏まえ、支援会議の時間で検証を行ったが、最終のまとめが年度中にできなかった。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・早急にまとめを行い、業務の中で改善すべき点を可視化する。改善点に取り組みながら令和 6 年度の自己評価も実施していく。 		

部署名：児童支援部

① 地域貢献の視点			
重点課題	他事業所と協力し、十分な受け入れキャパシティの確保	事業判定	終了
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・計画時に記したように、小野市に同業他事業所が増えたことにより当事業所のキャパシティに以前よりは余裕があるため、キャパシティの確保というよりは利用児童の確保が重要であった。しかし、加西市の就学後の児童まで含めて考えると、放課後等デイサービスのキャパシティ等はまだまだ課題はある。加西市にある一事業所として今後も子ども支援連絡会等を通して協力を続ける必要がある。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども支援連絡会等を通して加西市内の他事業所との協力体制を継続しつつ、当事業所の利用児童確保のため、各行政への当事業所の利用状況の案内を継続するが、なゆたの重点課題としては終了とする。 		
重点課題	同法人他事業所の活用	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度は THREE-P に協力してもらい、なゆたの児童と THREE-P の利用者の交流の機会を2度ほど持つことができたが、今年度は機会が合わずに実施する事ができなかった。大空のスノーズレンを体験させてもらう企画は大空に協力してもらい、実施することができた。以前は、モンファボリにも協力していただいていたが、現在は以前の様な形ではないため、協力して企画するのは難しい。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・大空の職員に協力してもらい、演奏会等を企画し他事業所との交流自体は継続する。 		
重点課題	当事業所のキャパシティの増強、ニーズへの応答	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時、保護者から療育の希望頻度を聞き取り、児童の発達課題やグループになる児童とのマッチング等を考慮し、可能な限り保護者のニーズに添えるように療育を運営してきた。年度途中にも当事業所の新規利用はあるため、2回/週以上利用中の児童には利用枠を譲渡してもらう必要性もあったが、可能な限りニーズに応えるようにしてきた。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き 50 枠全てを使い切って最大限保護者のニーズ、児童の発達目標を達成できるような療育体制を整える。 		

②財務の視点			
重点課題	定員の維持	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して 50 枠/週全て契約し、利用してもらう事ができた。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・行政等の関係機関への周知を継続し、令和5年度と同等の利用割合を維持する。 		

重点課題	利用割合の維持							事業判定		継続				
実施状況		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	H26年	100	140	154	170	140	160	176	148	148	156	156	123	1771
	H27年	151	143	175	156	156	156	148	150	150	146	145	101	1777
	H28年	126	136	169	154	158	151	158	164	162	178	198	141	1895
	H29年	149	168	198	173	173	189	187	185	181	172	169	145	2089
	H30年	161	193	188	175	168	146	194	191	171	163	162	140	2056
	R1年	182	178	187	211	165	182	201	179	179	174	166	149	2153
	R2年	181	168	215	206	177	190	213	182	172	164	165	177	2210
	R3年	198	170	200	183	186	188	186	187	185	168	168	182	2201
	R4年	185	180	203	187	176	174	173	175	183	172	166	174	2148
	R5年	189	180	198	182	180	177	183	182	169	182	175	178	2175
R5年利用割合	9.45%	9%	9%	9.10%	9%	8.85%	8.71%	9.10%	8.45%	9.57%	9.21%	8.90%	9.03%	
	・年度内の目標としていた平均9人/日は達成することができた。													
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・各利用児童の追加療育希望の確認 ・積極的な振替療育の案内 ・保護者の送迎のしやすさの把握（住まい等） ・療育の質の維持 													

③顧客の視点				
重点課題	保護者による評価の向上、維持		事業判定 継続	
実施状況	・年度末に実施している保護者評価のアンケートの結果、「事業所の支援に満足しているか」の項目に対し、全ての保護者に「満足している」の評価をいただいた。			
次年度に向けて	・当事業所が理念としている「児童支援は親支援」の意識を忘れず、児童のニーズと同等に保護者のニーズを汲み取り、支援にあたる。			

④業務プロセスの視点				
重点課題	保護者の思いに気づき、寄り添い、応える		事業判定 継続	
実施状況	・なゆたにおいての親支援として、それぞれの保護者のニーズの違いを整理するようにしている。テクニカルな情報を求めている保護者、こどもの成長と一緒に喜ぶことを求めている保護者、しないといけない事が多すぎて少し疲れてしまっている保護者、等。なゆたとしてはアタッチメント形成をベースとして療育を実施しているため基本的に利用児童を称賛することを優先事項にしているが、全ての保護者が「よくできたことだけの報告」を求めているわけではないため、相談や報告の際には、「よくできている事、課題と思われる事」のバランスを意識するようになってきた。			
次年度に向けて	・3月まで所属していた心理士が、保護者の相談、支援を半分担ってくれていたため、4月から新しく入職した児童指導員に、可能な限り近い業務をこなしていけるよう指導していく。			

重点課題	新しい SST 課題の挿入	事業判定	終了
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年度ごとにグループ療育に参加してくれる児童の発達年齢はまちまちであり、毎年グループ療育で用いる課題のマイナーチェンジと新課題の考案を継続している。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に評価してもらう項目の中にも「活動が固定化しないように工夫しているか」というものがあるため引き続き課題の見直しは続けるが、重点課題からは外すこととする。 		

⑤学習と成長の視点			
重点課題	それぞれの職種、各個人の視点を持ち寄り、事業所として1つの支援形態を作る	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の理念として、「まずは試してみて、失敗から学ぶ」という事を意識するように声をかけあってきた。以前よりは一事業所としてのチームワークは向上したと感じる。しかし、まだ全職員一人ひとりが遺憾なく力を発揮し、より児童と保護者に良いサービスを提供するためには改善の余地があると感じる。次年度は職員の異動、入職もあるため、新たなチーム意識を構築していく必要がある。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく入職した児童指導員に、「アタッチメント」「発達の最近接領域」等なゆたのベースとなる理論について理解を促し、その上でオリジナルの視点を持って事業所に還元できることを模索するよう伝える。 ・風通しの良い職場に向け、インフォーマルな場面での職員間の交流や情報共有を意識していく。 		
重点課題	権利擁護についての理解向上	事業判定	終了
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止委員会が立ち上げられたため、管理者を始め職員の権利擁護に対する意識は高くなっている。虐待防止チェックリスト等をきっかけに、職員会議で虐待防止に関する意見を出し合うこともできた。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も権利擁護についての理解向上は福祉の一事業所の課題として続けていくが、「権利擁護」という言葉のみにとらわれず、職員一同で利用児童、保護者の人権、ニーズといった広義に支援することを意識していく。 		

部署名：通所系支援部

①地域貢献の視点			
重点課題	【就労継続支援B型】 イベント開催方法の検討 (目標値：1～2回/年)	事業判定	見直し
実施状況	・貸出について利用は数件あった。イベントとしての開催については通常営業を崩さないことを前提に市など外部関係者の企画時に場所と食事を提供する形態を実施した。		
次年度に向けて	・営業時間の短縮を視野に事業検討している中で、開催をどのようにしていくか含めて見直す必要がある。		
重点課題	【自立訓練】 カリキュラムの充実(目標値：1～2人)	事業判定	終了
実施状況	・継続して1名の方に園芸に関わる内容で外部講師として参加してもらっていた。事業見直しもあり、新たな追加等は実施していない。		
次年度に向けて	・事業終了		

②財務の視点																							
重点課題	【共通】 稼働率及び出席率の向上 (目標値：B型→稼働率 平均 115% 出席率 平均 80% 自立→稼働率 平均 39% 出席率 平均 95%)	事業判定	見直し																				
実施状況	<p>・数値をグラフ化、年間の推移を一覧にしたものを全体及び個別に分けて作成。意識づけは出来たものの、今年度は精神症状による長期欠席や入院等が重なり、向上のための手立てが思うように実施できなかった。</p> <table border="1" data-bbox="411 1440 1465 1637"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">稼働率</th> <th colspan="2">出席率</th> </tr> <tr> <th>目標</th> <th>実際</th> <th>目標</th> <th>実際</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就労継続支援B型</td> <td>平均 115%</td> <td>平均 105.7%</td> <td>平均 80%</td> <td>平均 79.3%</td> </tr> <tr> <td>自立訓練(生活訓練)</td> <td>平均 39%</td> <td>平均 28.2%</td> <td>平均 95%</td> <td>平均 73.9%</td> </tr> </tbody> </table>					稼働率		出席率		目標	実際	目標	実際	就労継続支援B型	平均 115%	平均 105.7%	平均 80%	平均 79.3%	自立訓練(生活訓練)	平均 39%	平均 28.2%	平均 95%	平均 73.9%
	稼働率		出席率																				
	目標	実際	目標	実際																			
就労継続支援B型	平均 115%	平均 105.7%	平均 80%	平均 79.3%																			
自立訓練(生活訓練)	平均 39%	平均 28.2%	平均 95%	平均 73.9%																			
次年度に向けて	・利用登録者数を増やし、稼働率の向上を図る。																						

重点課題	【共通】 営業日数の見直し (目標値：休業日8日/月)	事業判定	見直し																																																																														
実施状況	<p>・月の休業日8日を原則として設定。お盆や正月などを除き開所日数を確保することはできた。しかしながら、土祝の営業に参加する利用者が少なかったため、事業や月により休業日を9日に設定するなど調整を図った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>B型</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4</td> <td>-9</td> <td>-9</td> <td>-8</td> <td>-9</td> <td>-9</td> <td>-8</td> <td>-9</td> <td>-9</td> <td>-9</td> <td>-10</td> <td>-8</td> <td>-8</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>-8</td> <td>-8</td> <td>-8</td> <td>-8</td> <td>-9</td> <td>-8</td> <td>-8</td> <td>-8</td> <td>-8</td> <td>-10</td> <td>-8</td> <td>-8</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自立</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4</td> <td>-9</td> <td>-9</td> <td>-8</td> <td>-9</td> <td>-9</td> <td>-8</td> <td>-9</td> <td>-9</td> <td>-9</td> <td>-10</td> <td>-8</td> <td>-8</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>-8</td> <td>-8</td> <td>-8</td> <td>-8</td> <td>-9</td> <td>-8</td> <td>-9</td> <td>-9</td> <td>-9</td> <td>-10</td> <td>-8</td> <td>-9</td> </tr> </tbody> </table>			B型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R4	-9	-9	-8	-9	-9	-8	-9	-9	-9	-10	-8	-8	R5	-8	-8	-8	-8	-9	-8	-8	-8	-8	-10	-8	-8	自立	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R4	-9	-9	-8	-9	-9	-8	-9	-9	-9	-10	-8	-8	R5	-8	-8	-8	-8	-9	-8	-9	-9	-9	-10	-8	-9
B型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																																					
R4	-9	-9	-8	-9	-9	-8	-9	-9	-9	-10	-8	-8																																																																					
R5	-8	-8	-8	-8	-9	-8	-8	-8	-8	-10	-8	-8																																																																					
自立	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																																					
R4	-9	-9	-8	-9	-9	-8	-9	-9	-9	-10	-8	-8																																																																					
R5	-8	-8	-8	-8	-9	-8	-9	-9	-9	-10	-8	-9																																																																					
次年度に向けて	<p>・利用者数の推移を見つつ、営業日を-8日もしくは-9日で設定する。加えて土曜日祝日営業の場合の内容を検討し参加率の向上を図る。</p>																																																																																
重点課題	【就労継続支援B型】 就労支援事業費の効果的配分 (目標値：2,500,000円)	事業判定	見直し																																																																														
実施状況	<p>・人件費にあたる対象職員を4時間勤務・週4日から、7時間・週5日へと変更。各月の推移を見ながら、これまでの積立金等を活用し平均工賃との配分を図った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目(抜粋)</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度(概算)</th> <th>昨年度増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収入①(委託作業)</td> <td>5,722,799</td> <td>6,096,946</td> <td>341,147</td> </tr> <tr> <td>収入②(飲食)</td> <td>5,695,225</td> <td>6,625,215</td> <td>929,990</td> </tr> <tr> <td>支出①(利用者工賃)</td> <td>5,718,874</td> <td>5,500,816</td> <td>△218,058</td> </tr> <tr> <td>支出②(人件費)</td> <td>899,927</td> <td>2,412,000</td> <td>1,512,073</td> </tr> <tr> <td>支出③(設備等積立)</td> <td>537,450</td> <td>221,014</td> <td>△316,436</td> </tr> <tr> <td>支出④(工賃変動積立)</td> <td>1,420,000</td> <td>508,331</td> <td>△911,669</td> </tr> </tbody> </table>			項目(抜粋)	令和4年度	令和5年度(概算)	昨年度増減	収入①(委託作業)	5,722,799	6,096,946	341,147	収入②(飲食)	5,695,225	6,625,215	929,990	支出①(利用者工賃)	5,718,874	5,500,816	△218,058	支出②(人件費)	899,927	2,412,000	1,512,073	支出③(設備等積立)	537,450	221,014	△316,436	支出④(工賃変動積立)	1,420,000	508,331	△911,669																																																		
項目(抜粋)	令和4年度	令和5年度(概算)	昨年度増減																																																																														
収入①(委託作業)	5,722,799	6,096,946	341,147																																																																														
収入②(飲食)	5,695,225	6,625,215	929,990																																																																														
支出①(利用者工賃)	5,718,874	5,500,816	△218,058																																																																														
支出②(人件費)	899,927	2,412,000	1,512,073																																																																														
支出③(設備等積立)	537,450	221,014	△316,436																																																																														
支出④(工賃変動積立)	1,420,000	508,331	△911,669																																																																														
次年度に向けて	<p>・平均工賃の算出方法が変わることを受け、目標工賃等の見直しが必要となるため、配分方法等についても併せて見直す必要がある。</p>																																																																																

重点課題	【自立訓練】 外部に向けた成果発表の機会 (目標値：1回/年)	事業判定	終了
実施状況	・12月に外部関係者に向けた発表の機会を設定。人数の加減により事業所にて執り行った。		
次年度に向けて	・事業終了		
重点課題	【自立訓練】 イベントへの招待(目標値：5回/年)	事業判定	終了
実施状況	・7～11月で案内を事前配布するとともに、募集を行っていたが、年度途中で事業見直しを行うこととなり、8月末で募集を中止した。		
次年度に向けて	・事業終了		

③顧客の視点			
重点課題	【共通】 地域における送迎ニーズ充足に向けた 取り組み	事業判定	継続
実施状況	・見学対応を行う中で、半日の利用を希望する方が数名いたが、結果利用は断念されるなどこともあり、事業所として送迎をどのようにしていくか検討。人間的な部分も課題ではあるが、送迎ニーズだけでなく一人ひとりの働き方に合わせたサービス提供が可能な形を模索する方向性が今後求められるとの見解に達した。		
次年度に向けて	・ニーズを整理し、利用者の様々な働き方に応えられるサービスの形を検討・構築する。		
重点課題	【就労継続支援B型】 支援学校・企業との関係構築	事業判定	継続
実施状況	・PTA及び生徒の見学会、支援学校教諭の見学会受入を行った。また実習については年間2名の受入(2年生2名)を行った。		
次年度に向けて	・令和6年度卒業生以降に向けて、それぞれのニーズに合った実習を行える体制を検討し、その後の利用につなげられる実習にする。		

重点課題	【就労継続支援B型】 平均工賃 30,000 円の維持 (目標値：平均工賃約 31,400 円)	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・就労支援会計を毎月把握しながら工賃支払額を調整。繰越金や積立金を活用しつつ、平均工賃の維持につなげた。しかし、令和6年度報酬改定により平均工賃の算出方法が変わったことにより年度末の調整により新たな計算方法での平均工賃をもとにしたことで、目標設定とは異なる結果となった。 改定前平均：27,955 円 改定後平均：36,381 円 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・報酬改定に伴う平均工賃の算出方法の変更及びそれに伴う基本報酬や各種加算の状況を見つつ、適切な目標平均工賃を再設定する。 		
重点課題	【就労継続支援B型】 パンフレットの改訂	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の広報委員会(部会)を開催。その中で本会に係る業務のほか、パンフレットの見直しと改訂(実施済)、SNSの活用に向けた動画撮影方法の習得、ホームページの見直し、利用者確保に向けたチラシの作成などを実施した。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の見直しを受け、パンフレットやホームページの修正と利用者確保のためのチラシを完成させる。またSNSを視野にした広報活動を検討する。 		
重点課題	【自立訓練】 個別訓練計画の導入	事業判定	終了
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や内容を整理し統一、個別支援計画と連動するように進めた。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・事業終了 		
重点課題	【自立訓練】 パンフレットの改訂	事業判定	終了
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の広報委員会(部会)を開催。その中で本会に係る業務のほか、パンフレットの見直しと改訂(実施済)、SNSの活用に向けた動画撮影方法の習得、ホームページの見直し、利用者確保に向けたチラシの作成などを実施した。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・事業終了 		

④業務プロセスの視点			
重点課題	【就労継続支援B型】 就労訓練プログラムの作成	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・参考となる研修(就業支援基礎研修)にスタッフを派遣した。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の作業を中心とした中で、個別にニーズのある利用者に対して必要なアプローチが出来るように検討する。 		

重点課題	【自立訓練】 学年制開始に合わせたシステムの見直し	事業判定	終了
実施状況	・令和5年度は全体で5名（2年目3名、1年目2名）での開始となったため、年数ごとの活動と合同による活動に分けて行うようにしたが、途中1名がA型事業へ移行したこともあり、基本合同による活動提供となった。		
次年度に向けて	・事業終了		

⑤学習と成長の視点															
重点課題	【就労継続支援B型】 ジョブコーチ的役割を担える人材の育成	事業判定	見直し												
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 関係する以下の外部研修に参加した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年月</th> <th>研修名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5. 11</td> <td>就業支援基礎研修</td> </tr> </tbody> </table>			年月	研修名	R5. 11	就業支援基礎研修								
年月	研修名														
R5. 11	就業支援基礎研修														
次年度に向けて	・学んだ内容を事業所にフィードバックする機会を設け、全体で取り組めるよう共有を図る。														
重点課題	【就労継続支援B型】 内部研修の開催	事業判定	継続												
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 以下の研修を実施した <table border="1"> <thead> <tr> <th>年月</th> <th>研修名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5. 08</td> <td>虐待防止研修（理念・倫理に基づいた支援）</td> </tr> <tr> <td>R5. 10</td> <td>災害対策研修（感染症対策）</td> </tr> <tr> <td>R6. 01</td> <td>災害対策研修（事業継続計画について）</td> </tr> <tr> <td>R6. 01</td> <td>サービス管理責任者基礎研修報告</td> </tr> <tr> <td>R6. 01</td> <td>災害対策研修（消防設備等）</td> </tr> </tbody> </table>			年月	研修名	R5. 08	虐待防止研修（理念・倫理に基づいた支援）	R5. 10	災害対策研修（感染症対策）	R6. 01	災害対策研修（事業継続計画について）	R6. 01	サービス管理責任者基礎研修報告	R6. 01	災害対策研修（消防設備等）
年月	研修名														
R5. 08	虐待防止研修（理念・倫理に基づいた支援）														
R5. 10	災害対策研修（感染症対策）														
R6. 01	災害対策研修（事業継続計画について）														
R6. 01	サービス管理責任者基礎研修報告														
R6. 01	災害対策研修（消防設備等）														
次年度に向けて	・来年度も外部研修と並行し、内部研修の企画を検討する。														
重点課題	【自立訓練】 カリキュラム実施におけるスタッフによる差をなくす	事業判定	終了												
実施状況	・年間予定していたコンサルテーションを開催。利用者の状況報告から支援の課題等の助言を受けた。														
次年度に向けて	・令和6年2月開催をもって終了。														

部署名：共同生活援助部

①地域貢献の視点			
重点課題	加西市を中心とした重度者や医療的ケアが必要な方の利用ニーズに応えられる事業所作り	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・利用ニーズについて利用者等及び相談支援と話し合い、利用回数が増加したケースが3件（6月から2名、11月から1名）あった。 ・新規利用は相談支援事業所と自宅訪問等を行い、3月に1件の新規契約を得たことですべての曜日とも定員数に達した。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・新規の契約希望の方には土曜営業日やキャンセル枠の利用をもって加西市内外のニーズに応じていく。 		

②財務の視点			
重点課題	稼働率の向上(輝き)	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・①地域貢献の視点の実施状況に記載。 ・年間稼働率が前年度の80.5%(平均利用者数16.1人)から88%(17.6人)へ上昇した。単月では11月以降が高くなり90.7%から95.8%で推移した。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜営業日の利用者数を増やす。(現在契約中の方の利用ニーズを確認する) ・通所利用者の利用時間の延長を検討する。(延長可能と思われる方は現在2名) 		
重点課題	送迎実施	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平日営業日の迎えコースは前年度と比べ2コースから3コース、送りは1コースから3コースに増えた。 ・送迎が必要な利用者の利用曜日や利用時間に合わせ、コースや時間の変更を行った。 ・軽自動車による送迎の実施により狭い道路の通行がしやすくなった。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況と家族のニーズを把握しながら、効率的な送迎支援を継続する。 		
重点課題	定員数維持(大空)	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・4月から6月に利用者の入院がのべ56日あったが、定員14名(年間利用率97.8%)を維持し、5月以降は利用率95.2%から100%を維持した。 ・希望の郷との連携会議を2回実施した。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・輝きの通所利用者へのニーズ確認、希望の郷との連携会議の開催、相談支援事業所への情報提供等を行い、男性の入居待機者を確保する。 		
重点課題	定員数維持(なごみ)	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・定員4名を維持し年間利用率99.2%であった。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の健康管理に留意し、入院を防ぐ。 		

重点課題	定員数維持（くつろぎ）	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・空室1に対し5月から新規者の体験利用を開始し、10月に本契約となった。 ・1月下旬より精神面の不調から利用できない利用者があり、2月、3月の利用率が低下し、年間利用率が68.9%となった。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・利用できていない利用者の状態や意向を踏まえ、1名の空室への補充を早急に行う。 		

③顧客の視点			
重点課題	人生の最終段階を考える	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状態が安定しており、看取り支援を行う利用者がいなかった為、支援内容の検証は行わなかったが、個別支援計画の充実を図る目的で職員研修を行った。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢の利用者については変化を的確に捉えながら、看取りのQOLについての学びと看取り支援を実施する。 		
重点課題	日中プログラムの充実（機能訓練を含む）	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリ、スヌーズレンや音楽療法、入浴支援、おやつ作り、季節行事、フラワーセンターや買い物等の外出を実施した。 ・11月から、翌月の行事・活動予定カレンダーを作成して配布したことで、他施設利用の為休む予定の方が予定変更されての利用に繋がった。 ・こども園との交流は、感染症の状況を踏まえ創作物の交換に留まった。 ・鶉野上町の祭りは事業所内でコロナの陽性者が出た為、不参加とした。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防の点から地域との交流が少なかった為、充実を図る。 ・満足度アンケートで、入居者の家族は生活や活動の状況が分かりにくいと意見があったため、見学会を計画、実施する。 		
重点課題	事業所のPR	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・Instagram投稿回数31回/年。フォロワー数は127人（3月末時点）となった。 ・大空輝き便りを2回発行した。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・Instagramの投稿担当者が1名のみだったため投稿回数が少なかった。投稿についてのマニュアルを見直して年間投稿回数を増やす。 		
重点課題	高齢重度障害者の支援に特化したサービスの充実	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・体調不良から早期に重篤化しやすい高齢重度障害者の特性についてミーティングや職員研修で話し合い理解を深めた。 ・日々の体調観察と管理の徹底や食事形態の変更、冬場の保温対策等を実施し、体調不良時は医師との連携をもって早期治癒に努めて入院を防いだ。 ・支援業務量に応じ、人員配置を調整した。 		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢重度障害者のQOLについて理解と意識の向上を図る。 ・利用者の細やかな状態観察により疾病に繋がる症状を早期発見し、入院を防ぐ。 		

④業務プロセスの視点			
重点課題	業務の標準化	事業判定	継続
実施状況	・マニュアル作成は生活環境チェック、見直しは業務内容の周知方法、個別の移乗介助方法、利用者の個別支援、投薬マニュアル、爪切り方法を行った。		
次年度に向けて	・マニュアルとして書面に出来ていない業務がある為、点検とマニュアル化を行う。また既存の見直しを行う。		
重点課題	事業所の目的の共通認識	事業判定	継続
実施状況	・支援会議や職員研修、日々の利用者支援、個別支援会議等を通して職員間で事業所の目的を共有してきた。		
次年度に向けて	・ゆたか会の理念を基に大空輝きにおける支援の指針検討を通して、継続的に事業所の目的に対する職員間の共通認識が持てるようにしていく。		
重点課題	会議の活性化	事業判定	見直し
実施状況	・日中活動検討4回、機能訓練・安全な介護6回、研修5回、事故防止・防災4回、虐待防止7回、医務・感染予防3回、環境整備3回、広報2回、各行事検討5回を実施した。 ・また1ヶ月から2ヶ月に1回のペースで主任会議を行った。		
次年度に向けて	・月に2回行う支援会議日に上記の会議を行ってきたが、委員会によっては実施日の周知が遅れた。年度初めに年間の委員会会議日を周知し、委員会の責任者が事前の会議議題等を計画的に作成し会議を活性化させる。		
重点課題	事故防止とリスクマネジメントの確立	事業判定	継続
実施状況	・ヒヤリハットの周知と対策、内部研修（3回）を行った。		
次年度に向けて	・利用者が怪我をする等の事故は減少しているが、公用車の接触事故、投薬漏れ等が見られた。事故防止のための各ルールを周知徹底する。		
重点課題	的確な記録を作成する	事業判定	継続
実施状況	・ケアカルテにより画像による記録が行え、利用者の表情や状態の共有の精度が向上した。また生活介護の通所利用者家族へは利用時の様子を画像で報告し、高評価を得た。 ・個別支援計画関連の書類もケアケルテ内に入力するよう、移行を進めた。		
次年度に向けて	・長文の入力は 아이폰よりキーボードの方が早い為、状況により使い分けて効率化を図る。		

⑤学習と成長の視点			
重点課題	職員のスキルアップ(介護力・支援力・倫理観を高める)	事業判定	継続
実施状況	・内部研修：リスクマネジメント、感染予防（2回）、日中活動検討、虐待防止、介護技術、意思決定支援、個別支援計画、口腔ケア、テーマを決めたグループワーク（2回）を実施した。外部研修：新人研修、接遇研修、中堅社員実践マネジメント研修に参加した。		

次年度に向けて	・各部研修内容の支援現場での実践状況に課題が残る為、学ぶ、実践、実践報告を一連の流れとする研修計画に見直す。		
重点課題	虐待防止への取り組み	事業判定	見直し
実施状況	・虐待チェックリスト結果の検証行い、全体に周知した。また内部研修により虐待防止に対する職員の意識向上に努めた。		
次年度に向けて	・チェックリスト結果の検証や職員へのアンケートから抽出された案件に対して、継続的な検討に課題が残る為、支援会議にて定期的に議論する。		

